

第15回人権ショートシター入賞作品

(小・中学生の部)

最優秀賞

「それぞれのこせい」

わたしは運動が苦手だけど、運動がとくいな子もいる。わたしは本を読むのが好きだけど、あみものや絵をかくのが好きな子もいる。みんなそれぞれとくいなことがちがってもいいと思う。

優秀賞

「勇気がなかった自分へ」

私は、理由もなくいじめられていた彼を見捨ててしまった。本当は声をあげて注意できたのではないか。そこへ来て声を出し、守った友人がいた。私も勇気を出せる人になりたい。あの時のような後悔はいやだ。

優秀賞

「言葉のおもみを考えて」

殺す、死ぬ、消えろって簡単にネットに書きこみしているけど、本当に目の前で言ったらどうなるか考えてほしい。ひどい言葉を簡単に使わないでほしい。どんな人が見ても読んでも伝わる言葉を発信してほしい。

優秀賞

「この世は本当に人権を守れているのだろうか」

ぼくは、この世が完全に人権を守れているとは思いません。なぜなら、ニュースやテレビで暴力やいじめ、親のぎゃくたいなどで自殺したり死んだりしている人を聞いたことがあります。ぼくも人権を守る一員になりたい。

佳作

「人権を大切に」

ぼくはいじめを受けたことがある。ぼくはいじめでいろんなことを学んだ。いじめはぜったいにやってはいけない。人の心をもものすごく傷つけるからだ。人権を大切にし、いじめをしないように。

佳作

「じいちゃんへ」

耳が聞こえにくいから、出かけるのがおっくうだって言うけれど、ぼくがじいちゃんの耳になって、声がかれたって通訳するよ。だから、いっぱい一緒にでかけよう。

佳作

「でんしゃのせきのゆずりあい」

わたしとおかあさんがでんしゃでたっていたら、せきをゆずってもらいました。おれいをいってすわりました。おばあさんがのってきたので、つぎはわたしたちがせきをゆずりました。よろこんでもらえてうれしかったです

佳作

「命」

最近、簡単に人の命をうばう人が増えてとても残念だ。ゲームはリセットができるけど、人の命はたった一つ。せっかくもらった命、誰もがよく考えて大切にしてほしい。

佳作

「先生へ」

4年生の時、みんなに一人の男の子が仲間外れにされている時先生が怒ってくれたね。それで私は仲間外れにされている人が悪いのではなく、仲間外れにしている人が悪いと私は気付いた。先生ありがとう。

(高校・一般の部)

最優秀賞

「障がいのある君へ」

とある公園。泥だらけの君を指差して笑う子どもたちに向かって君は、満面の笑顔で「一緒に遊ぼう」と声を掛けたね。いじわるをいじわるで返さない。差別を差別で返さない。そんな君は誰より素敵な人間なんだよ。

優秀賞

「のりちゃんへ」

皆がいじめを見て見ぬふりをする中「私は助けてあげられないけれど、さやちゃんと一緒にいじめられることはできるよ」とにっこり笑って話しかけてくれたのりちゃん。あのとき泣いたのは嬉しすぎたからです。

優秀賞

「笑顔のピリゴール」

徒競走で目は孫のお前だけを追った。でも途中から視界にはもう一人の子がいた。お前は足に軽い障害のある子を振り返って走り、最後は一緒にピリでゴール。笑顔が一等賞より輝いていたよ。孫でいてくれてありがとう。

優秀賞

「知らない誰か」

駅のホームで舌打ちされた。知らない人だったけど悲しくなった。電車の中で「ありがとう」と言われた。知らないひとだったけど嬉しくなった。

佳作

「我が孫へ」

先日、運動会を見せてもらったよ。心が温まる場面ばかりの中で、特に足の不自由な子と手をつないで励ましながら走っていた君の姿に、じいじいは感動したよ。あの気持ちを忘れずにね。じいじいは本当に嬉しかった。

佳作

「使わない言葉」

英語で「こんにちわ」は「ハロー」だけど「キモい」は知らない。「ありがとう」はフランス語で「メルシー」だけど「死ね」は分からない。知りたくもないし、分かりたくもない。

佳作

「無題」

老いは誰の身にも降り落ちてくる確かな未来。おぼつかない足取り、スローな所作、聞き取りにくい声・・・笑わないで、苛立たないで。お年寄りも身を持って若者の明日の姿を教えてくれている。老父母の日々に毎日感謝。

佳作

「インターネット世代へ」

『「うざい」「きもい」よ、さようなら。「いいな」「すてき」よ、いらっしゃい』と心で叫んでほしい。インターネット世代だからこそ、言葉を大切にしないと、一瞬で多くの人を傷つけてしまうよ。

佳作

「人生」

「人」と「生」きるから「人生」というのです。決して一人で生きることはいけません。他人を思いやり、認め合うことが、あなたの人生をもっともっと素晴らしいものにする鍵になるはずですよ。